

石川県立美術館だより

平成 19 年 6 月 1 日発行 第 284 号

世界遺産 ナスカ展



ハチドリの上絵
撮影:義井 豊

5月26日(土)~ 6月24日(日)会期中無休

特集

甲冑と陣羽織
石川県の寺社文化財展
伝統加賀友禅工芸展の精華

5月24日(木)~ 6月24日(日)会期中無休

目次

世界遺産 ナスカ展	2	夏休み親子で楽しむ美術館 参加者募集	6
甲冑と陣羽織	3	映像ギャラリー	6
石川県の寺社文化財展	3	各地の展覧会	7
伝統加賀友禅工芸展の精華	4	ミュージアムレポート	7
鑑賞ファイル	4	所蔵品紹介	8
コレクション展示室主な展示作品	5	ミュージアムショップ通信	8

企画展示室(7~9展示室)

世界遺産 ナスカ展

地上絵の創造者たち

主催 / 北國新聞社、北陸放送

共催 / 石川県立美術館

5月26日(土)~6月24日(日)会期中無休



農耕儀礼で幻覚性飲料を飲むシャーマン、または楽師と参加者たち

ナスカの地上絵―それは「パンパ」と呼ばれる砂漠に描かれたジオグリフであるが―人類の歴史上最大の謎とされ、これまで多くの人々の関心を引き続けてきました。
ナスカ文化は、紀元前一〇〇年から紀元七〇〇年頃まで南米ペルーの南部海岸地帯に広く栄え、その中でも砂漠地帯に約八〇〇平方キロの広さにわたって描かれたナスカの地上絵は、一九三〇年代に発見されて以来、いつたい誰が、なぜ、何のために描いたのか、誰にも解明できず巨大な謎でありつづけてきました。
本展覧会では、最先端の科学情報とともに展示する一三〇〇年前のナスカ人の子供のミイラをはじめ、本展のために修復をした刺繍付きの大型マント、ナスカ人の暮らしぶりを

- 【展覧会構成】
- 第1部 ナスカ―砂漠からのメッセージ
- 1：自然
 - 2：暮らし
 - 3：ものづくりの文化と技術
 - 4：ナスカの日常生活
 - 5：ナスカ人の姿―人類学者の挑戦
 - 6：儀礼と音楽
 - 7：神々の世界
 - 8：戦争と首級
 - 9：誕生と再生
 - 10：パルパ河谷ラムニヤで発掘された埋葬品



黄金の旗印または頭飾り

た乾いた砂漠の大地を、最先端CGで再現し、体感型バーチャルシアターで上映いたします。ハイクオリティの映像で再現された地上絵と、彼らが残した遺物から、ナスカ人の想像力と世界観に触れてみてください。

伝える彩色土器など、最新研究成果に基づいて、ナスカ文化の前身であるパラカス文化(紀元前九〇〇〜一〇〇年)から原プロトナスカ期、ナスカ前期、中期、後期、移行期の彩色土器、織物といったナスカ文化の複雑な画像世界と高い技術水準を紹介した、約二〇〇点の多彩な考古遺物をご覧ください。また会場では、ナスカの地上絵とそれが刻印された

また会場では、ナスカの地上絵とそれが刻印された



斑点ネコ

写真の作品は、いずれもペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館所蔵
撮影 義井 豊

観覧料	
個人	一般 1,200円
	中高生 800円
	小学生 600円
団体(20名以上)	一般 900円
	中高生 500円
	小学生 300円

- 第2部 地上絵の謎
- 1：地上絵はなぜ描かれたのか？
 - 2：バーチャル(VR)で飛ぶナスカの地上絵！ナスカでも体験できないナスカ…
 - 3：エピソード

今月のコレクション展示室
(前田育徳会・尊經閣文庫展示室)

甲冑と陣羽織

5月24日(木)~6月24日(日) 会期中無休

天正十一年(一五八三)、藩祖前田利家が金沢へ入城した時期に合わせて、前田家歴代藩主所用の甲冑・陣羽織及び鞍・鎧などを展示します。

応仁の乱(一四六七~七七)以後、戦闘が絶えない戦国時代となりました。この間の戦闘は、槍の普及さらには天文十二年(一五四三)の鉄砲伝来を契機として、密集隊形による徒歩集団戦へと変化し、機敏な動きをするためにより軽い甲冑が求められ、また、攻撃員が多様化、強力化したのにもない、防具である甲冑の変化もつながり、頑丈なものが求められました。

このような時代背景から、これまで作られてきた甲冑の様々な要素を組み合わせて、総合的に構成されたのが当世具足です。具足とは、装具の完備した甲冑という意味であり、大鎧、胴丸、腹巻などがそれだけで成り立っていたのに対して、当世具足は兜・面具・胴・袖と籠手・臑当・佩楯の七具などをすべて皆具している点が特徴です。

陣羽織は、武士が合戦の時、具足の上に着用した外被です。室町時代中期頃より用いられ、具足羽織や陣羽織などと呼ばれました。最初は普通の羽織を陣中で着用していましたが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。戦場において寒さや雨露から身を守るため、そして動き易さを求めて、また、存在誇示や応接の際に威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、南蛮的嗜好が強く反映したデザインのものや、奇抜ともいえる自由な意匠による陣羽織が作られました。

江戸時代に入ると陣羽織も実用的なものから儀礼的な服装に変化し装飾的要素が強くなり、前田家歴代藩主の陣羽織も、華やかな色彩、大胆で奇抜な意匠のものが多くなりました。

今回は、戦国時代に甲州で活躍した武田信繁、高坂昌信、山本春行、馬場信房の甲斐武田家に関わる四人の名将を紹介する甲州四将図屏風も展示します。

文化庁の指定文化財勸告・承認出品に併せ、当館の寄託品のなかでも、本県の寺院・神社に伝えられた文化財の公開という恒例の展示です。郷土の文化財の再認識の機会となるものです。

それぞれ地元で伝えられてきた文化財は、その土地の歴史を物語る史料に止まらず、今日においても地域における人々の誇りの一つともなっているものであり、なかでも寺社に伝わる文化財であれば、個別・個人の宗教観や信条を超えて、地域社会における生活スタイル・信仰といった精神的な関連も当然、高いものであるといえます。

私達の祖先が育み守ってきたこれら寺社に伝えられた文化財は、わが国の文化・歴史を後世に正しく伝えていくためにも、修復を含めた適切な保存が必要であることはいつまでもありません。

以下では代表的な展示品についてご説明します。

「重文 仏果碧巖破開撃節(一夜碧巖集)」(大乘寺所蔵)は、碧巖録と通称され、宋の圓悟克勤が雪竇重顕の選んだ頌古百則に垂示・着語・評唱を加えた、中国における禅宗の先達の禅機に係る公案集で、禅宗における聖典ともいえるものです。白山権現の助筆によって、一夜にして書写を終えたとの伝承は、北陸を母胎に全国展開した同派の草創期の様子を物語る史料であるといえます。

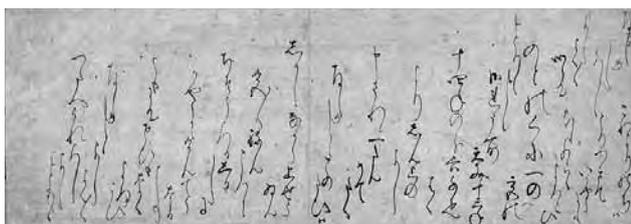
「重文 後奈良天皇女房奉書」(気多神社所蔵)女房奉書は、天皇側近の内侍と呼ばれる女官が天皇の意志を代書したもので、論旨よりも内勅的な場合に出されたといわれます。全文が女消息体で室町時代に盛行した散らし書きで書かれています。(写真)

「県文 両界曼荼羅図」(金蔵寺所蔵)曼荼羅は密教の修法に際し用いるもので、諸尊を網羅して密教の宇宙観で描いた図です。両界曼荼羅は万象を総括するといわれ、胎藏界は成生の世界を、金剛界は理論の世界の構成を表現しているといわれます。この様式は九世紀はじめに空海によって請求され、密教の伝播とともに広まったといわれます。県内現存の最古の作例です。

(第2展示室)

石川県の 寺社文化財展

5月24日(木)~6月24日(日) 会期中無休



後奈良天皇女房奉書(のとのくに一の/宮の...)

今月のコレクション展示室 (第5展示室)

伝統加賀友禅 工芸展の精華

5月24日(木)~6月24日(日)会期中無休



友禅訪問着「春想」(第7回展金賞)
杉村典重

華やかな友禅染めの着物は、洋服が日常着となった現代も、変わらず私たちを魅了し続けています。武家文化が栄えたこの地で生まれた加賀友禅は、公家風の優美で絢爛豪華な京友禅と違い、品格のある落ち着いた写実絵画調で、主として草花をモチーフとしています。

技法としては糸目糊による細密な描写を主体としており、加賀五彩と呼ばれる、藍・臙脂・黄土・草・古代紫を基調として、繊細なほかしや虫喰い模様などを施した叙情的な作風が特徴です。

この伝統ある加賀友禅の技術を保存し、その向上をはかるため、昭和五十三年に加賀友禅技術保存会が結成されました。この会は優れた技術を持つ友禅作家たちを中心としたもので、石川県の無形文化財に認定されており、現在七名の作家が会員に認定されています。そして後継者育成事業も目的とする同会が、その一環として毎年行っているのが、今年度で二十九回目を迎える伝統加賀友禅工芸展です。

同展は石川県における新人友禅作家の登竜門であり、各年の受賞作は加賀友禅の優れた意匠や技術を受け継ぎながらも、新鮮なアプローチを見せる作品が選ばれています。また作家として表に名前が出ることがない引染や糊置の技能に対する賞が設けられていることから、友禅という文化財に対する保存会の誠実な姿勢がうかがえます。会員たちの円熟した技術の作品も毎年、目を惹かせてくれます。

今回の展示では、中町博志・柿本市郎・高平良隆・由水煌人・上田外茂治・杉村典重・二代由水十久の七名の会員の作品に加えて歴代の展覧会での金賞受賞作品を併せて十九点展示し、五月三十一日から六月五日まで香林坊大和にて開催される、二十九回展と併せてご覧いただくことで、今に続く友禅の伝統とそれを支える人々の思いを感じ取っていただければ幸いです。

「加賀友禅と京友禅」

鑑賞ファイル No.8

「友禅」と名の付く染め物といえはいくつもありますが、「京友禅」と「加賀友禅」が有名。これらは同じ祖により、同時代に前後して作られたという点で比較されます。

「友禅」とはその名が示すとおり、宮崎友禅齋が基礎を作ったといわれていることは有名です。宮崎友禅齋についてはその出生地についても金沢、能登、京都の諸説があり、雲に包まれた存在です。しかし、京都で画工として活躍し京友禅を確立、六十歳前後で加賀に移り住み、加賀友禅を確立した後その生涯を終えたことは、様々な文献や墓石などの資料が伝えています。木村雨山監修の「加賀友禅」には、「もともと加賀には加賀紋などの、驚くほど精巧で優れた模様染めの技術があった。しかし、優れたデザイナーが存在しなかったため発展性がなかった。そこへデザイナーとしての友禅齋がやってきて、新しい友禅模様を確立したこ

とに、彼の業績が認められる。」との主旨が記されています。

このように、同じく友禅齋を祖として発展した京と加賀の友禅ですが、双方を比べると多少違いがあります。技法的には、京友禅は金箔や刺繍などで加飾をほどこすのに対し、加賀友禅ではそれらを用いず、本染めの味を大事に生かしていること。また、京友禅は内側から外へのボカシを多用するのに対して、加賀友禅では先から内へ向かってのボカシが多く見られると言われます。加賀友禅の虫喰い模様も有名です。作風は公家や町衆文化に支えられた京友禅は華麗な図案風模様が多く、武家文化に支えられた加賀友禅は重厚な絵画調の柄が好まれたようです。

ちなみに加賀友禅という呼び名は明治以降につけられたものです。

今月のコレクション展示室

主な展示作品

5月24日(木)~6月24日(日) 会期中無休

●=国宝、○=重要文化財、◇=石川県指定文化財



1982年私 鴨居 玲

前田育徳会・尊經閣文庫展示室

特集 甲冑と陣羽織

- 黒塗六十二間甲冑
- 三地利常所用
- 市松に唐花文陣羽織
- 十代重教所用
- 甲州四将図屏風

第1展示室

- 色絵雉香炉
- 野々村 仁清
- 色絵雌雉香炉
- 野々村 仁清

第2展示室 古美術

特集 石川県の寺社文化財展

- 三代嗣法書
- 大乗寺蔵
- 正親町天皇宸翰御詠草
- 管生石部神社蔵
- 親鸞聖人絵伝
- 専称寺蔵

【古九谷】

- 色絵鶉草花図平鉢
- 古九谷
- 青手樹木図平鉢
- 古九谷

第3展示室

1982年私

- しおさい
- 鴨居 玲
- 馬ならぶ
- 中村 秀雄
- 牧歌
- 南 政善
- 降霊術HARP
- 宮本 三郎
- 吉田 富士夫

第4展示室

【彫塑】

- 裸婦
- 木下 繁
- 人魚
- 松田尚之
- 舞妓十一題
- 宮本 三郎

第5展示室 工芸

【染織】

特集 伝統加賀友禅工芸展30年の精華

- 【陶磁】
- 耀彩鉢
- 三代徳田八十吉
- 【漆工】
- 片切沈金彫栗鼠文小箆笥
- 藤井 観文
- 【金工】
- 双鱼
- 高橋 介州
- 【その他の工芸】
- 桧截金雲竜華文盤
- 西出 大三

第6展示室

【日本画】

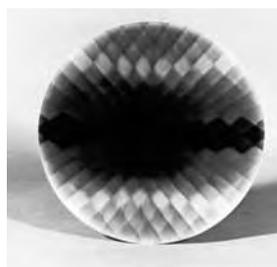
- 午睡
- 稲元 実
- 咆哮
- 木島 桜谷
- 花車
- 羽根 万象
- 四季花鳥図
- 広田 百豊
- 能登海浜加賀山麓図
- 山脇 晴雲

観覧料

一般 350円	個人	一般 280円	団体 (20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下 無料	高校生以下 無料		
一般 280円			
大学生 220円			
高校生以下 無料			



能登海浜加賀山麓図 右隻部分 山脇 晴雲



耀彩鉢 三代徳田八十吉



人魚 松田尚之

参加者募集！

キッズ☆プログラム「夏休み親子で楽しむ美術館」

親子で楽しむ、作品鑑賞と制作体験のキッズ プログラム体験講座

第1回 粘土でつくろう！ 小学校1・2年生

日時：7月31日（火）

対象：美術に関心のある小学校1・2年生とその保護者
（親子参加型なので必ず保護者同伴）

内容：展示室で作品鑑賞の後、粘土を使って簡単な制作体験を実施

時間：1年生 10：00～12：00

2年生 13：30～15：30

*1・2年の兄弟姉妹での申し込みは、どちらかの参加希望時間記入の上、連名をお願いします。
（内容は同じです）

第2回 工芸に挑戦！ 小学校3・4年生

日時：8月2日（木）

対象：美術に関心のある小学校3・4年生とその保護者
（親子参加型なので必ず保護者同伴）

内容：展示室で作品鑑賞の後、染めものの簡単な制作体験を実施

時間：13：30～15：30



第3回 油絵に挑戦！ 小学校5・6年生

日時：8月4日（土）

対象：美術に関心のある小学校5・6年生とその保護者
（親子参加型なので、必ず保護者同伴）

内容：展示室で作品鑑賞の後、油絵の簡単な制作体験を実施

時間：13：30～16：00

場所：講義室・コレクション展示室

定員：第1・2回は各15組、第3回は12組

参加費：材料費

（各回で異なりますが、親子あわせて1000円程度）

お申込方法：往復はがきで申し込みください

往復はがき裏面に参加希望のお子さん・保護者の氏名、お子さんの学年、連絡先（住所、電話番号）、希望する行事名をお書きください。

双子等の場合ははがき1枚に連名で申し込みください。

返信はがきの表面には返信先を記入ください。返信はがき裏面はこちらで印刷しますので何も書かないでください。

応募者多数の場合は抽選になります。

（返信はがきで通知）

応募締め切り：6月30日（土）消印有効

映像ギャラリー

6、7月の映像ギャラリーから

6、7月の映像ギャラリーのうちビデオ鑑賞会では、先月に引き続き「作家シリーズ」をご覧ください。さまざまなジャンルの多彩な顔ぶれによる異色の組み合わせが、それぞれの芸術の個性を浮かび上がらせてます。

一方、映画上映は、人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定された工芸作家のすぐれた技術を紹介します。

6月17日（日）

友禅 / 中村勝馬（明治27～昭和57、昭和30年認定）

友禅の伝統的な技法を用い、斬新な意匠や品格ある色調による近代的な作風を示した。

鍍金 / 関谷四郎（明治40～平成6、昭和52年認定）

金属を金槌や木槌で打ちながら器物を形成し、ろう付による高度な接合せを駆使する。

6月24日（日）

茶の湯釜 / 長野埴志（明治33～昭和52、昭和38年認定）

砂でつくった型に、溶かした砂鉄を流してつくる古釜の技法を現代に復元した。

木工芸 / 大野昭和齋（明治45～平成8、昭和59年認定）

桑を中心に各種の木材を使い、指物、削物、象嵌などの技法によって、すっきりした華やかさを見せる。

7月22日（日）

友禅 / 山田 貢（明治45～平成14、昭和59年認定）

中村勝馬に師事し、簡明な図柄や清新な色彩など、独自の優雅な作風を開拓した。

蒔醬 / 磯井正美（大正15～、昭和60年認定）

線彫りして色漆を埋める蒔醬の伝統を受け継ぎ、彫りを工夫して、立体感やぼかしをたくみに表現する。

ミュージアムレポート

特集 高光一也画業60年の軌跡は、春の企画展「生誕100年 高光一也の画業 - モダンの煌めき -」に向けての、イベントとして開催したものでした。当館蔵の111点の高光油彩作品の中から、27点をピックアップし、その際には、次の企画展出品作とあまり重ならず、それでいて主要作品はしっかり押さえるという、ちょっと難しい選択に頭を悩ました。でも第4展示室に60年の画業の推移をご覧いただけるよう展示を終えた時は、とても驚きました。絵が強いのです。そしてズンと太い筋が通っているのです。思えば、一部屋すべてを使って高光作品を特集するという事は、これまでなかったのです。企画展の場合は、たくさんの作品が3部屋に分散し、一望に見渡すということはありません。それが今回は初期から晩期まで見晴らしく見ることができたのです。それで、時代毎の作品の変化がよりくっきりと浮かび上がったのです。

ギャラリートークでは、作風の変化を時代の推移と共にお話していきました。県工時代の独学の頃から、中村研一に師事して帝展・文展に出品し、戦後には室内の人物と裸婦が徐々に大胆に変化していったこと。30年代の抽象画大流行の時代には、それに応ずるように写実から遠ざかり、40年代に入って再び女性像を華麗に描き出し、50年代には白を基調色として日本画の絵肌を思わせるような美人画を描いたことなどを、順を追って述べたのです。その変化が実にくっきりとしているので、聴講の方々には「なるほど、なるほど」とずいぶん身を入れて聞いていただき、話甲斐がありました。

その時、「このモデルさんは誰それさんです」、「このドレスは私が先生からの依頼で調達したのです」などと話される方々がいらっしゃり、高光先生が亡くなられて20年が経ちますが、まだまだ身近な存在であるのだと痛感した次第でした。



各地の展覧会

舞台芸術の世界

～ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン～
会期:6月9日(土)～7月16日(月・祝)

京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL (075) 761-4111 / TEL (075) 761-9900

華麗なるアール・ヌーヴォー、アール・デコの世界

～ガレ・ドーム・ラリック

会期:6月9日(土)～8月11日(土)

MOA美術館
静岡県熱海市桃山町26番2号
TEL (0557) 84-2511

始皇帝と彩色兵馬俑展

司馬遷『史記』の世界

会期:5月26日(土)～7月16日(月)

新潟県立万代島美術館
新潟市中央区万代島5-1
TEL (025) 290-6655(代表)

ル・コルビュジエ展

建築とアート、その創造の軌跡

会期:5月26日(土)～9月24日(月・祝)

森美術館
東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53F
TEL (03) 5777-8600 (ハローダイヤル)

日本近代絵画の絶筆

会期:5月29日(火)～7月8日(日)

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号
TEL (078) 262-0901

6月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)》いずれも午後1時30分から行います

月日	行事	内容	会場
6/3(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ5 装飾の美 ガレ/ミュシャ (30分) 作家シリーズ6 魂の自画像 ゴッホ/シーレ (30分)	ホール
6/9(土)	ギャラリートーク	石川の寺社文化財展 (北澤 寛 学芸主査)	展示室
6/10(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ7 不思議発見 マグリット/堀内 正和 (30分) 作家シリーズ8 人間像に迫る ロダン/シーガル (30分)	ホール
6/16(土)	キッズ 鑑賞講座	コレクション展示室の工芸を鑑賞しよう (西 ゆう子 学芸主任)	講義室
6/17(日)	月例映画会	友禅 中村 勝馬 (25分) 鍛金 関谷 四郎 (30分)	ホール
6/23(土)	美術講座	琳派はなぜ人気があるのか (村瀬 博春 学芸専門員)	講義室
6/24(日)	月例映画会	茶の湯釜 長野 埜志 (25分) 木工芸 大野 昭和齋 (30分)	ホール
6/30(土)	ギャラリートーク	石川ゆかりの芸術院会員・人間国宝 (末吉 守人 学芸第一課担当課長)	展示室

ゆう ぜん ほう もん ぎ あ し び
友禅訪問着「馬酔木」

かき もと いち ろう
柿本市郎 昭和12年(1937)~

平成4年(1992)
第14回伝統加賀友禅工芸展金賞



ほんのりと赤みがかった灰褐色の地に、白いつぼ型の小さな花を付けた馬酔木の枝を、左袖から裾にかけて斜めに配し、さらに対角線上の右袖上から右肩にも枝をのぞかせた構図は、身にまとい帯をさした人を最も美しく見せる訪問着の意匠です。

馬酔木は春先に咲く常緑の低木で、すずらんのような小さく可憐な花を咲かせますが、その葉を食べると身体のだきな馬ですら酔ったようになり、鹿は角を落とすと言われるほど毒性が強い植物です。花は万葉集にも歌われたことで知られており、馬酔木の字の由来はこの特性から来ているとの説もあります。

本作はこの馬酔木のみをシンプルに図案化したものです。温かみのある暗色の地色は、加賀染めの始まりとされる梅染の中でも、特に念を入れて色を重ねた黒梅染を思わせ、柔らかく浮かび上がる馬酔木との対比により、里山の春をひっそりと告げるこの花の密やかでありながら確かな存在感を見事に表現しています。

作者は金沢に生まれ、昭和30年より友禅の人間国宝、木村雨山に師事しました。42年に独立し、54年の第1回伝統加賀友禅工芸展より入選を重ね、昭和61年と平成4年の本作で金賞を受賞しています。平成6年に石川県指定無形文化財加賀友禅技術保存会会員に認定されており、品格が高く清楚な作品を作り続けています。

2階コレクション展示第5展示室にて展示中。

ミュージアムショップ通信

当館企画展「高光一也の画業」はいかがでしたか？

この後もナスカ展を初め、浮世絵展などの展示会も目白押しです。季節も夏に向かい、閉館前の美術館ライフを楽しんでいただきたいと思います。

さて、ショップからは新しい絵はがきコレクションを紹介します。いずれも当館人気の作品で、皆様からご要望の多かった作品です。まず、塗師祥一郎作「雪後の湖畔」、村田省蔵作「春めく」、富永直樹作「大将の椅子」、西出大三作「截金彩色合子 花守犬」の4点で、芸術院会員、人間国宝の作家ばかりとなりました。どれも近くに置いておきたい作品ばかりですね。



左から「雪後の湖畔」「春めく」「大将の椅子」「花守犬」
1枚 各50円

次回の当館展覧会

前田育徳会
尊經閣文庫
展示室

前田家の名宝

第2展示室

加賀の美術工芸

第5展示室

石川県ゆかりの
芸術院会員・人間国宝

休館日:6月25日(月)~27日(水)

石川県立美術館だより 第284号
2007年6月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>